☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

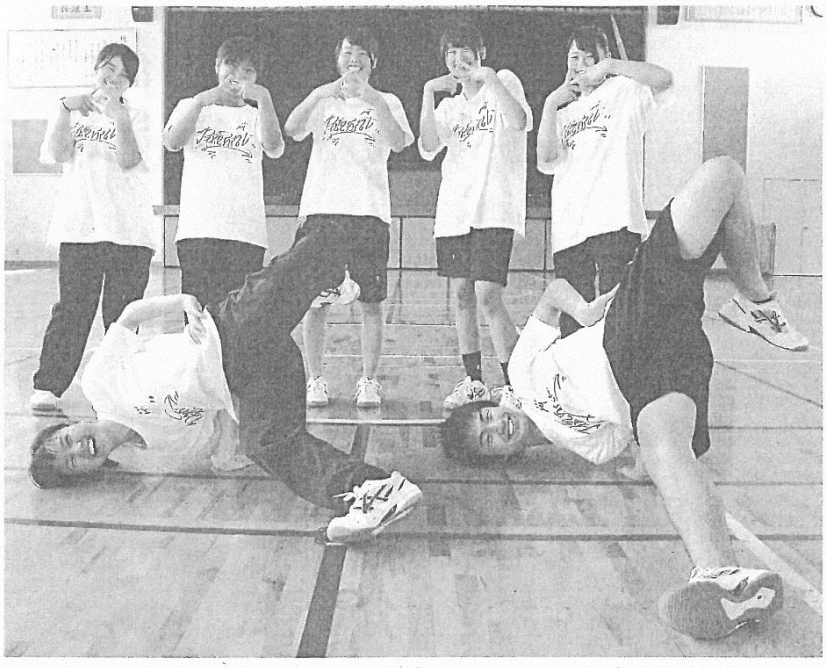
報道で見る氷上西高　２０１８

丹波新聞　平成３０年７月２２日（日）

ストリートダンス部発足

氷上西高校　22日「道の駅のタベ」出演

今年4月に氷上西高校で発足した、現在、丹波市の高校で唯一のストリートダンス部が、22日午後5時から道の駅あおがきで開かれる「道の駅のタベ」に出演する。オープニングで2曲を披露する。部長の廣内たま美さん（2年、青垣中出身）は、「氷上西高にダンス部があることを知ってもらうために、地域に出て活動したい」と話している。（田畑知也）



今春から部に昇格した「ダンス部」のメンバー＝氷上西高校で

1－3年生10人が所属。ヒップホップやブレイクダンスなど「ストリートダンス」が専門。

愛称は「広まる」などの意味がある「Ｒａｍｐａｎｔ（ランパント）」。他の部活と掛け持ちをしている部員がほとんどで、ダンス経験者はわずか。週3日ほど、放課後に体育館に集まって曲を流し、振りの習得に励んでいる。

昨春赴任した神崎悠哉教諭（34）の呼びかけに応じた10人ほどでダンスサークルを立ち上げた。神崎教諭は大学時代、仲間と若手ダンサーの登竜門コンテストに出場して優勝するなどダンス経験が豊富で、ほぼ初心者の生徒たちにダンスの楽しさを伝えてきた。神崎教諭は、前任校でもダンス部の立ち上げに力を注いだという。

今年になり、学校の方針もあってダンスとバスケットボールの2サークル、フットサルと吹奏楽の2同好会がいずれも「部」に昇格した。

幼稚園のころからジャズダンスやヒップホップの経験がある廣内さんが推されて部長に就任。「ダンスは中学校でやめるつもりだったので、高校でも楽しめてうれしい。ダンスに挑戦してくれる子がいてくれるのが一番うれしい」とほほ笑む。

神崎教諭は「ダンス部があるから氷上西高校に進学するという子が出てくるとうれしい。ダンスを通じ、生徒が自信を持つことにつながれば」と話している。

「道の駅のタベ」では、氷上西高、青垣中の吹奏楽部や太鼓部もステージ発表。灯ろう約500個に点灯する。氷上西高の生徒や商工会青年部が、子どもが楽しめる遊び屋台を企画。食べ物屋台は地元グループらが出店する。問い合わせは青垣観光案内所（079・87・2222）。